

消費者団体と食品安全委員会委員との懇談会の概要

消費科学連合会と食品安全委員会委員との懇談会（第3回）

【議事概要：放射線照射食品関係の抜粋】

1. 日 時 : 平成19年2月1日(木) 15:30～17:10

2. 場 所 : 食品安全委員会7階委員会室

3. 出席者 : (敬称略)

(消費科学連合会)

- | | |
|-------|-------|
| ・会長 | 大木美智子 |
| ・副会長 | 伊東依久子 |
| ・副会長 | 石和祥子 |
| ・副会長 | 犬伏由利子 |
| ・企画委員 | 工藤操 |
| ・企画委員 | 清水順子 |
| ・企画委員 | 鈴木美根子 |
| ・企画委員 | 古川英子 |
| ・企画委員 | 山本唯子 |

(食品安全委員会委員)

見上委員長、小泉委員、長尾委員、野村委員、畑江委員、本間委員

(食品安全委員会事務局)

齊藤事務局長、日野事務局次長、國枝評価課長、境情報・緊急時対応課長、吉岡勧告広報課長、永田リスクコミュニケーション官、中山評価調整官

4. 議 事

(1) 委員長挨拶

(2) 出席者紹介

(3) 意見交換

5. 意見交換の主な発言 (: 消科連側 : 委員及び事務局側)

放射線照射食品について

: 食品安全委員会は、放射線照射食品を「推進する・しない」という立場ではない。しかし、現在企画専門調査会で、放射線照射食品を自ら評価するべきではないかという意

見がある。消費者のお立場で、「評価の優先度」についてどのようにお考えかお聞きしたい。

：原爆と結びつけて不安とを感じる人は少なくなっていると思うが、「今」「何のために」放射線照射を行うのか理解できない。業界からの要望によって評価が進み、いつの間にか許可されてしまうというのは納得出来ない。もっと説明が欲しい。必要性和安全性が理解できれば、絶対に反対ということではない。

：品質を保持できる殺菌方法であることはわかるが、ドイツでの動物実験で発ガン性が認められた等の記事を見たりすると、不安が広がる。

：食品安全委員会はリスク評価機関であり、国民それぞれの「安心感」の達成という面では、期待に添えない。「安心」は100人いれば、みな違う。各国の評価機関をみても、「安心」については応えていない。

：リスク評価機関としては、自ら評価の案件としては、現にリスクにさらされているものを優先すべきと考える。放射線照射食品が「規格基準」の変更ということであれば、リスク管理機関である厚生労働省の判断になろう。

：世界的には香辛料の滅菌法は放射線照射である。他国ではできるのに、日本ではお金と時間をかけて、他の滅菌法を行っていることは、生産者・消費者双方にとって不利益ではないかとも思う。

：お話をまとめると、消費者としては、放射線食品について絶対反対というわけではないが、科学的なことについてもっとわかりやすく説明してほしいし、今後もこのような意見交換を続ける中で評価の必要性を見極めていくべきではないかと考える、ということではないか。

：そのとおり。

(以上)

全国消団連と食品安全委員会委員との懇談会（第8回）

【議事概要：放射線照射食品関係の抜粋】

1. 日 時： 平成19年2月15日（木）16：30～18：15

2. 場 所： 食品安全委員会7階委員会室

3. 出席者：（敬称略）

（全国消費者団体連絡会の「食」のグループ）

- | | |
|--------------------|-------|
| ・東京消費者団体連絡センター | 池山 恭子 |
| ・日本消費者協会 | 市川まりこ |
| ・全国消費者団体連絡会・食のグループ | 伊藤 康江 |
| ・主婦連合会 | 和田 正江 |
| ・家庭栄養研究会 | 蓮尾 隆子 |
| ・東京都地域婦人団体連盟 | 飛田恵理子 |
| ・日本消費者連盟 | 山浦 康明 |
| ・全国消費者団体連絡会 | 神田 敏子 |
| ・全国消費者団体連絡会 | 菅 いづみ |

（食品安全委員会委員）

見上委員長、小泉委員、長尾委員、野村委員、畑江委員、本間委員

（食品安全委員会事務局）

齊藤事務局長、日野事務局次長、國枝評価課長、境情報・緊急時対応課長、吉岡勧告広報課長、永田リスクコミュニケーション官、中山評価調整官

4. 議 事

- （1）委員長挨拶
- （2）出席者紹介
- （3）意見交換

5. 意見交換の主な発言（ : 消団連の食のグループ側、 : 委員及び事務局側）

放射線照射食品について

: 放射線照射食品の安全性評価については、企画専門調査会において、自ら評価の候補に挙がっているが、評価の緊急性、優先性についてどのようにお考えか。

: 消費者団体のうち50グループ程度が、放射線照射食品に反対するネットワークに参加している。情報が少なく、検知法も明確化されておらず、また、本当に一般消費者にとって必要な技術なのか有用性にも疑問がある。社会的にコストがかさむ技術であり、食品安全委員会がコストや時間をかけて評価する必要性、緊急性は感じられない。

: 危険性として、成分が変化し発がん性、遺伝毒性を示す、動物実験でラットの細

胞内のDNAが傷ついたという結果、照射臭による食味低下、遺伝毒性試験が行われていないこと、悪用・乱用の危惧、の5点が上げられる。現段階での評価には反対。
：照射臭が出るまで照射しては色、臭いから商品にならないので、そこまでの照射はしない。この技術の特徴として、照射後の処理が必要ないこと、低温で殺菌できる唯一の手段であることなどがあげられる。まずは使い方の工夫が必要なのではないか。

：厚生労働省から諮問が来た時点に対応すればよいのではないか。

：消団連の食のグループでは、まだ議論を詰めていない。スパイス一つずつの評価をするのか、一括して評価するのか、検知法としては定量的であるべきか、表示の問題など事前の議論が必要。

：食品安全委員会には独立性を保って欲しい。現段階で評価を行うと、政治的・社会的圧力があつたように疑われる。経緯をよく見て評価を行わないと、政治的に利用される恐れがある。

：企画専門調査会でも議論されてきたが、もっと国民に情報を提供すべき。放射線照射のメリット、デメリット等について詳しく説明して欲しい。海外の食料に頼っている日本の現状を考えると、今の状況を放置すべきでない。是非、自ら評価を行うべき。

：消費者団体が有している情報は、数年前に全日本スパイス協会とやりとりをして以来止まってしまっている。評価の際は、食品安全委員会からの丁寧な情報提供を望む。

：放射線照射の研究は、研究材料が自由に入手できないという特徴があり、業界側に管理された研究に偏る恐れがある。

：食品安全委員会は業界を含め一切の圧力は受けていない。科学的根拠のみに基づき評価を行っている。

：消費者団体としては食品安全委員会の審議の独立性については十分理解している。

：消団連の食のグループとしては議論をしていないが、科学的情報を提供されれば、先入観を持つことなしに考えていきたい。個人的には、いずれ評価しなければいけないのであれば、早く評価して欲しいと思う。

(以上)